



ア エ ファ
AEFA 通信

認定NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

<http://blog.canpan.info/aefa/>

東日本大震災に寄せて … アジアからのメッセージ
このたびの大災害で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

**「世界中の魂と共に・・・」
ラオスからの応援メッセージ**

この度の東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。御支援者のみなさま、交流校のみなさまなどAEFA関係者の無事を確認いたしました。未だ厳しい状況下にいる方々がたくさんいらっしゃいます。AEFAには、アジアの交流校や関係者からお見舞いのメッセージが届いておりますので、ご紹介いたします。

宮城県 仙台市立 広瀬小、愛子小のみなさまへ

私たちはポンタン村の教員、児童、村当局です。日本で大きな地震と津波があったことを知った時、私たちはとても悲しく、胸が痛みました。心よりお見舞いを申し上げます。村人の誰もが、みなさんを傷つけるこのような災害が起きたことが、信じられませんでした。

今、私たちはただ祈ることしかできません。

私たちは世界中の魂と共にあり、祈りをささげます。

日本のみなさまが、今この瞬間に直面している災害から1日でも早く心身ともに健康な状態に戻られることを願っています。
ラオス サラワン県ポンタン小学校 より

福島県東館小のみなさま 石原さん

この手紙を書いているのは、ひとえにあなたがご無事でいられるか、お元気かどうか気になって仕方ないからです。日本を襲ったあの津波と大地震。そして原力発電所事故。私どもが今できることは、共に祈り、心からお見舞い申し上げます。私たちは皆様と共にあり、この困難で厳しい状況から立ちあがり、復興されましよう。

この手紙は、義援金のような価値のあるものではありません。でも、私たち全員が皆様に少しでも元気になっていただきたいと願う心からの気持ちが伝わっています。もちろん、それは皆様にとっては本当にささいな小さなことですが、私たちにとっては、とても大きなものです。私たちは、皆様が心身ともに健康を取り戻し、以前のように再生されますことを祈ります。日本はとても寛容で優しい人々が住む国です。世界中の魂が皆様と共にあり、皆様のために祈っています。どうぞ私たちの祈りを、忘れないでください。この大変な状況をみなさまが耐え抜き、雄雄しく立ち上がられることを祈っています。
ナトゥール小学校 教員児童生徒一同

**「日本の友だちに届けて！」
ベトナムからのメッセージ**

ベトナム中部高原は、山岳・高原地帯のため地味もやせ、ベトナム戦争の激戦地であったことから未だインフラも整わず貧しい生活が続いています。2009年にはケッサナ台風の直撃により、山津波や土砂災害、川の氾濫で大きな被害を受けました。

そのような状況にある、中部高原コントゥム省ダクト地区レバンタン小 コンヒリン分校（2010年度建設校）で、義援金を募る集会が開かれたそうです。これは、このたびの大災害を知った子どもたちが、家で飼っている鶏やお米を「日本の友だちに、届けたい！！」と学校に持ってき始めたことがきっかけとなり、村全体に呼びかける集会となりました。この地域の人たちにとって鶏はごちそう。自分たちの食糧なども十分ではない地域なのに、日本にいる友だちのために・・・と、持ち寄ってくれたそうです。



一方、ベトナム南部チャビン省ティウカン郡教育局のグエン・フォー先生からも、お見舞い状が届きました。「テレビや他の報道媒体から、2011年3月11日、日本で地震と津波が起こったことを知りました。この災害のおそろしい写真を見て心からお見舞いを申し上げたく、日本のみなさまに手紙を書いています。心からのお悔やみとお見舞いの言葉を、みなさまのご家族やご親戚、ならびに関係する学校、先生方や生徒などすべての方々にお伝えたく存じます。また特にティウカン郡の学校と交流のある岩手県紫波町星山小学校、福井県鯖江市河和田小学校、東京都国立市国立第七小学校、東京都港区芝小学校のみなさまにも、お見舞いの気持ちをお伝えしたいと思います。

私だけでなく世界中のすべての人が日本人のとても強い意志と不屈の精神を知っています。地震や津波の恐ろしい光景は消えさることでしょう。すべてのみなさまが安全で幸せで、そして今差し迫っている障害を乗り越えて明るい未来へ向かっていくことを願ってやみません。

日本のみなさまの平和と幸せ、そしてみなさまの生活がまた復興しますことを、祈っております。そして、いつの日かみなさまにまたお会いできる日を楽しみにしております。」



アエファ AEFA通信

認定NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

<http://blog.canpan.info/aefa/>

ラオス ノンヤオ中学校 2/28 開校式が行われました

子供たちは、全員がラオスと日本の国旗を手に持って、私たちを歓迎してくれました。開校式では、各来賓のあいさつ、感謝状の贈呈のあと、たくさんの風船に結ばれた「ノンヤオ中学開校」の垂れ幕が大空高く舞い上がって行きました。学校が村全体にとってどんなに大切なものか、また、長年の夢であった新しい中学校の開校がどんなにうれしかったか、よくわかりました。ノンヤオ中学は、ビエンチャン市から車で1時間ほどのところにある生徒数168名、教員数12名の学校です。部屋数は、4つの教室と職員室の計5室。これから少しずつ、図書室やミーティングルームなどの必要な施設を作っていく必要があります。校長先生のお話では、村の人たちの協力で、古い木材などを使ってどこまでできるか検討するとのことでした。



ノンヤオ中学がこれからどのように発展していくのか、ますます楽しみになりました。

(AEFA顧問 大石孝裕氏の紀行文より)

*****AEFAからのお知らせ*****



*「第四期定時総会」が、3/29（火）開催されました。

*「フレンド会報 第11号」4/20頃の発送予定です。

*4/29（金）、ベトナム南部ティウカン郡において、「フートゥーC小学校開校式」が開催されます。

宮崎県日南市立細田中 (ノンヤオ中交流校)2/21公開授業

ノンヤオ中開校式に先立ち、初の中学校同志の交流校となる宮崎県日南市立細田中学校において、1・2年生を対象に、ラオスを紹介する公開授業が開催されました。

日南市は日露戦争のポーツマス条約を全権大使として調印した、小村寿太郎の出身地。今年、没後100年を迎えます。飢肥藩校「振徳堂」から由来する、時代を担う「豊かな心と命を大切にする振徳教育」の推進に力を入れています。



当日は講師として、日南市での取り組みに注力するAEFA顧問大石孝裕氏とAEFAスタッフが参加。細田中の吉永先生、丸岩先生とのチームティーチングでラオスの紹介を行い、交流について考えました。公開授業ということで、日南市内の小中学校から、40名近くの校長先生・教頭先生及び「総合的な学習」担当の先生方にご来席頂きました。

授業終了後、吉永先生から細田中の交流取組についてご報告がありました。日南市教育委員会 河野好宏教育専門対策監からは、「この取組で、生徒達は日常生活を振り返るきっかけになると思います。大きな視野、グローバルな視点を持つことはとても大切です。これら



取り組みを通し、日南の子どもたちを応援したいと思います。子どもたちの『力』となる教育を推進していきたい」とのお話を頂きました。

ご参加の先生からは、ラオスとの交流について多くの質問のほか、「例

えば、自分の宝物、など共通のテーマを決めて絵の交流も考えられます。」「日本文化を伝えるのに、書道はとても良い。お互いの国の言葉での書道交流は？」など、多くの具体的で貴重なご意見を頂きました。

総括として、日南市教育委員会三田明生指導主事先生から「人は、他者のなかでこそ生きることができます。世界の中での日本、多文化理解、相互依存理解、国際交流を学ぶため、この取り組みを通して、出来ることから進めていきたいと考えます」とのお話を頂戴しました。

28日のノンヤオ中の開校式には大石氏も参加。その様子はまた細田中の生徒達に紹介される予定です。

日南市教育委員会の先生方、ご来席頂きました先生方、細田中の先生方皆様、有難うございました。

2月ラオス視察 報告

◆初めての歯みがき～サボン小学校～2/24◆

「いいにおいがするでしょう!？」ラオスNGOスタッフ ニヤイさんの呼びかけに、子どもたちは笑顔と真っ白い歯でこたえました。



初めての歯磨きに、口から出血して驚く子も・・・

ラオス山岳地帯タオイ郡サボン小学校。貧困度の高いこの村では、一度も歯を磨いたことの無い子、家に歯ブラシが1本しかなく、家族全員で共有している子がたくさんいます。今回、学校に通っている1-4年生の児童全員に歯ブラシが配られました。先生に歯磨き粉を預け、「歯磨き教室」を開催。このような保健衛生教育も、学校で学ぶ大切なことの1つです。

A E F Aでは、日本の学校との交流活動でも、歯磨きや手洗いを説明するポスターや、歯ブラシや石鹸の支援など取り入れることができないか検討しています。

◆山岳地帯タオイ郡パチュドン幼稚園～2/25◆

2005年建設校パチュドン小学校の教室を間借りして、3年前から幼稚園課程が開かれています。山岳少数民族タオイ族の子どもたちが、1日でも早く公用語であるラオス語に触れることは、とても大事です。このような山岳地帯の学校では、1年生が70人いても、5年生がたったの7人・・・という状況が少なくありません。「言葉の壁」を乗り越えることが、初等教育の修了率向上につながります。AEFAスタッフが、指人形で「サバイディー！（こんにちはー!）」英語→ラオス語、そしてブンナー校長先生がタオイ語に訳します。指人形に、子どもたちは多数決で「カッターイちゃん」（うさちゃん）と名前をつけました。カッターイちゃんは、あっという間に人気者！教室中に楽しそうな笑い声が響きました。



◆パチュドン中初の卒業生～12名が5月に中学修了◆

今年5月、ラオスの学校の年度末に、山岳地帯タオイ郡パチュドン中学校から初の卒業生がでます。パチュドンに2005年にAEFAプロジェクトが入ってから、まずは初等教育である小学校の教育環境が整備され、次いで中学課程が新設。小学校を間借りしたり、食堂で学んでいた中学生のために中学校舎も建設されました。中学校を出ても高校は無く、村に帰って農業をするしか将来がありません。卒業生12名は全員「教員養成学校」への進学を希望しています。1人でも多くの生徒に、その次の道を拓きたいと思いますが、今のところA E F Aでは3名分の奨学金を準備しています。皆様からのご支援をお待ちしています。



パチュドン中学校（2棟）

タオイ郡 トゥムリーフン学校建設 順調です！

村人たちによる建設地整地、川からの水汲み、大工さんへの食料提供等多くの協力により建設は順調に進んでいます。



この学校は、坂巻様・雨ヶ谷様 久我様・原田様・上村様の皆様よりご支援を頂いています。



コストコホールセールジャパン様からのご支援

コストコ様よりご支援頂いた「リュックサック」。幕張倉庫店の山本真也様が、運搬用にパッキング&成田空港までお届け頂きました。最も貧困度が高い山岳地帯タオイ郡の小学校へ届けました。毎日きちんと学校に通っている子、家が貧しい子を優先して配布。大事そうに胸に抱え、嬉しそうなお顔が印象的でした。



ラオスの大工の棟梁さん紹介！

2010年度建設校 コツマイ小学校を建設している棟梁さんです。建設は、当初11月に竣工予定でしたが、木材不足から完成が遅れています。「建設が遅れてしまって、すみません。原因は、ひとえに木材伐採の厳しい規則と、伐採許可を得るための手続きの大変さによります。でもあと1ヶ月くらいで完成させることができるでしょう。」(2011/2)



ラオスでは森林保護から木材伐採が厳しく規制されるようになり、手続きに時間がかかります。とはいえ、学校建設のように村の発展につながることは、優先的に伐採許可が出るそうです。



電気はないので、発動機を使って、製材作業中



壁は白くぬります。電気はないけれど、教室の中が明るくなります！

株式会社近江兄弟社様 ご支援校 カニョンケクナイ小を視察

継続してラオスの学校へ様々なご支援を頂いている株式会社近江兄弟社様。同社より辻昌宏取締役、太田明子課長、鴨敦子主任が2月、現地を視察されました。サラワン県ラオガム郡カニョンケクナイ村は、人口900人（うち女性500人）、120世帯170家族。少数民族スアイ族・ラーヴェン族の村です。児童数 87人（1年30人、2年57人）。3-4年は隣のカニョンケクノク小へ、5年生はドンニヤイ小へ通っています。十分な学校建物や教材が足りないのはもちろんのこと、少数民族ゆえにまずラオス語を覚えることが難しい状況です。

学校で行われた村人集会で、近江兄弟社様より世界地図・日本地図を示して紹介。辻取締役「みなさん、こんにちは。日本のまんなか、近江八幡にある近江兄弟社という会社から来ました。私は2年前ラオスに来て、貧しさ・生活の大変さを知りました。そして教育を受ける必要の在る子どもがたくさんいることを知り、教育さえあれば、もっと生活がよくなることを知りました。VFI・AEFAのみなさんに紹介されたこの村に、学校を支援したいと思います。今日は、みなさんのことをよりよく知るため、また私たちのことをもっと知ってもらうため、来ました。」



カムカム村長（左）に目録贈呈

カムカム村長（女性の村長は、大変珍しい）からは、「今の校舎は不十分で、村の子どもは全員通えません。校舎は老朽化し、特に雨が降ると大変です。また、学校に井戸がないため水汲みもとても大変です。建設にあたっては、村人は木材調達と建設作業を協力します。」また、たった1人の先生、オラタイ先生に、ラオス語に翻訳された絵本やボール等を贈呈しました。

村人集会のあと、父トーイさん・母ポムさん（29歳）・長女ボンちゃん（10）・ティーくん（7歳）・トゥイ君（5歳）一家を家庭訪問しました。

子ども達は、朝6時に起きて水汲み。（水汲みは朝夕1日2回）。女の子はお米を蒸して、朝食の準備。「子ども達には、より高い教育を受けさせたい。将来については、子ども達が自分の道を歩めるよう、可能性を見守りたい。」と語るポムお母さんは、小学校を出ただけです。文字のない少数民族の言葉とラオス語の違いを、お母さんから「ラーヴェン語&ラオス語講座」で発音から教えられ、「同じ言葉なのに全然違う・・・。初等教育の大切さが本当に良くわかりました」「生活も大変なのに、子ども達に教育を受けさせたいという村人の熱意や想いが伝わりました」と話されていました。



毎日の水汲みはどのようにしているのか、ボンちゃんが天秤棒を見せてくれました。みなさんも、水汲みを体験。「結構重たい！」「こんな小さい子が、こんなに重たいのを持って毎日・・・」と言葉を失っていました。水浴びや生活用水は、村はずれの川まで行きます。かなりの急勾配で、雨季にはどろどろになり歩くことも大変です。この川を越えて村に徒歩で入れられたみなさんは、その大変さを身をもって体験。学校には、井戸が建設され、子どもたちの水汲み作業を軽減します。水は、冷たく保つことができるひょうたんに入れてあります。バナナの葉っぱが栓代わりです。近江兄弟社のみなさんがひょうたんに興味を持った様子が、あっという間に村中に伝わり・・・「わたしたちは何も差し上げられるものがないけど・・・よかつたら日本へ持って行って！」「こっこのほうが大きいよ」あっという間にたくさんのひょうたんが集まりました！これらひょうたんは、本社ロビーにて掲示される予定です。株式会社近江兄弟社の皆様ご支援 本当にどうも有り難うございます！！



カニョンケク村からも 東日本大震災へのお見舞いのメッセージが届いています

「936人の村人全員、このたびの大災害に被災された日本の皆様に、心から謹んでお見舞いを申し上げます。このニュースを知ったとき、とても悲しく辛い気持ちがいたしました。すぐにでも日本に飛んで行きたいですが、それは叶わぬことです。私たちは遠いラオスから、いつでも皆様のことを思っています。そして、皆様が今の大変厳しい状況から少しでも早く復興されますことを、心よりお祈りします。この災害で命を落とされた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、生き残られた皆様が心を合わせ、復興にあたられますように。私たちはいつでも永遠に皆様の心の近くに居ります。皆様の周りに幸福が満ちることを祈って。

カム・インタヴォンより（サラワン県カニョンケク村副村長）

カニョンケクナイ小学校の教員・児童を代表してこのお手紙を書いています。日本を襲ったこの大災害を知ったとき、とても悲しく痛ましく思いました。私たちはいつでも皆さんの事を心配しています。いつもやさしく、世界の事を考えてくださる皆様にどうしてこのようなことが起きるのか、どうしてもわかりません。日本の皆様からのご支援は、私たちの村のような貧しい村の子ども達が学校に行き教育を受けることができる機会と、将来への明るい希望を拓いてくださっています。私たちはこのご恩を決して忘れません。いつか将来、この災害から復興されたなら、いつでも私たちの村にいらしてください。最後に、私たちの心からのお見舞いと祈りをお受け取りください。オラタイより（カニョンケクナイ小学校教員）